

シリーズ 超高齢社会のデザイン

高齢者法

長寿社会の法の基礎

樋口範雄

(武蔵野大学特任教授/東京大学名誉教授)

— [編]

関ふ佐子

(横浜国立大学国際社会科学研究院教授)

医療・介護・福祉、住まい、経済的基盤、財産管理、家族・相続、虐待・犯罪、裁判制度——高齢者をめぐる法的課題を広範囲にわたって整理し、その解決方法に重要な視角を検討しながら、高齢者法の具体像を解説する。高齢者の抱える問題に対処するための法的プランニングにも役立つ一冊。

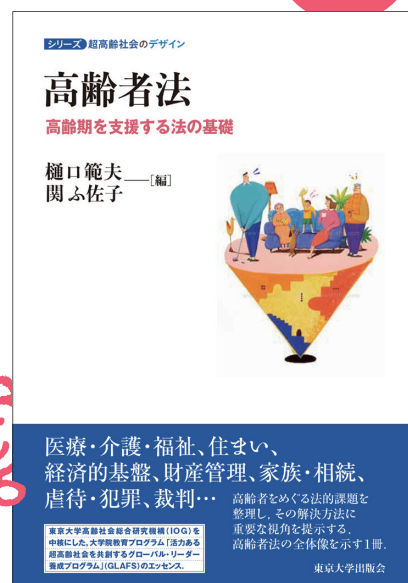
A5判・282頁・本体4,900円+税 ISBN978-4-13-034311-4

New!
2019年
8月刊行
予定

【主要目次】

- はじめに [樋口範雄]
- 第1章 高齢者法の意義 [関ふ佐子]
- 第2章 高齢者と医療・介護・福祉 [小野太一(政策研究大学院大学)・樋口範雄・川久保寛(神奈川県立保健福祉大学)]
- 第3章 高齢者の住まい [松井孝太(杏林大学)・原田啓一郎(駒澤大学)]
- 第4章 高齢者と経済的基盤 [中嶋邦夫(ニッセイ基礎研究所)・中田裕子(南山大学)・関ふ佐子]
- 第5章 高齢者と財産管理 [西森利樹(熊本県立大学)・中田裕子]
- 第6章 高齢者と家族・相続 [牛嶋 勉(弁護士)・宮本誠子(金沢大学)]
- 第7章 高齢者の虐待・犯罪 [高橋脩一(立教大学)]
- 第8章 高齢社会・高齢者と裁判 [西上 治(神戸大学)]

おわりに [関ふ佐子]



高齢者に関わる
法的課題を
広範囲にわたって
整理、
基本知識を解説!

東京大学出版会
営業局キャラクター
くまきち

【注文書】

貴店名・番線	<p>シリーズ 超高齢社会のデザイン 高齢者法 長寿社会の法の基礎</p> <p>A5判・282頁・本体4,900円+税 ISBN978-4-13-034311-4</p>	<p>ご注文数</p> <p>冊</p>
	お名前	お電話番号
	ご住所 〒	



東京大学出版会

〒153-0041 東京都目黒区駒場4-5-29 電話：03-6407-1069 FAX：03-6407-1991
e-mail：order@utp.or.jp URL：http://www.utp.or.jp/

大方潤一郎 — [編集代表]

(東京大学高齢社会総合研究機構 前機構長・特任教授、東京大学大学院・博士課程教育リーディングプログラム「活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム」プログラム・コーディネーター)

“活力ある
超高齢社会”
を構想するために!



- 【シリーズの特色】 ▶ 東京大学高齢社会総合研究機構 (IOG) を中核にして設置された、大学院教育プログラム「活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム」(GLAFS) のカリキュラムの基礎であり、その展開によって生まれた知的成果。
- ▶ 望ましい未来としての「活力ある超高齢社会」を構想・実現するための知を獲得し、その課題に取り組むうえでの基本図書。
- 【シリーズの構成】 ▶ ジェロントロジーという総合的学問領域、そしてそこに包括される医学、看護学、工学、法学、社会学、教育学などの幅広い領域の観点から、超高齢社会における諸テーマにアプローチする。

■ 高齢者法 長寿社会の法の基礎

樋口範雄 (武蔵野大学特任教授/東京大学名誉教授) — [編]
関ふ佐子 (横浜国立大学国際社会科学研究院教授)

医療・介護・福祉、住まい、経済的基盤、財産管理、家族・相続、虐待・犯罪、裁判制度——高齢者をめぐる法的課題を広範囲にわたって整理し、その解決方法に重要な視角を検討しながら、高齢者法の実像を解説する。高齢者の抱える問題に対処するための法的プランニングにも役立つ一冊。

■ 老化と老年病を考える

秋下雅弘 (東京大学大学院医学系研究科教授) — [編]

「老化」は細胞・臓器・個体レベルで若年成人から始まる生涯の問題である。また、老化を背景として発症するのが「老年病」である。本書は、医学的側面に焦点を絞って、老化と老年病の基礎知識から最新の話題までをコンパクトに概説。医学、看護学の分野での基本図書になると同時に、ジェロントロジー全般における参考図書として好適。

■ 地域包括ケアシステム

飯島勝矢 (東京大学高齢社会総合研究機構教授) — [編]
山本則子 (東京大学大学院医学系研究科教授)

団塊世代が75歳以上になる2025年を目途に、今後、高齢者に対して個別の疾患治療やケアにとどまらず、各々のケア提供者間の連携までを迅速に対応でき、また地域の特性に目を向けて、日常生活圏域でケア体制を保持することが求められている。このような観点から、本書では地域包括ケアシステムについて基本的な知識から重要となる問題、具体的な実践例までを紹介しながら、その構築と運営に資する内容を体系的に解説する。

■ ジェロンテクノロジー

廣瀬通孝 (東京大学大学院情報理工学系研究科教授) — [編]
伊福部達 (東京大学名誉教授)

ジェロンテクノロジーは、ジェロントロジー (老年学) とテクノロジー (技術) を合成した言葉である。本書では、ICT (情報通信技術) とIRT (情報ロボット技術) を生かしたジェロンテクノロジーについて解説する。超高齢社会が確実に進むなか、新たな展開を遂げるICTやIRTによる支援に関して、その基本的な考え方、技術の状況、今後の課題を提示する。

■ 人生100年時代の多世代共生

牧野 篤 (東京大学大学院教育学研究科教授) — [編]

超高齢社会悲観論が社会に蔓延して久しい。このような折、2017年には政府に人生100年時代構想会議が設置され、学び直し、リカレント教育が議論の焦点となり、高齢者のみならず、あらゆる世代の人々がマルチステージの人生を生きぬくための〈学び〉が重視されることとなった。本書では、〈学び〉をキーワードに考えながら、地域社会の具体的な試みを解説する。

■ 高齢者の食と健康

飯島勝矢 (東京大学高齢社会総合研究機構教授) — [編]

超高齢化に向かい、いつまでも自立して自分らしく生きるために、より早期からの健康およびQOLの維持が重要な鍵となる。本書では、人間の原点である「食」を中心に捉え、高齢期における早期からの健康維持を包括的な視点から捉えて、総合的方策を展望する。にフレイル (Frailty: 虚弱) およびその最たる要因である加齢性筋肉減少症 (サルコペニア) にも焦点を当てる。

■ 社会保障制度

岩村正彦 (前東京大学法学部教授)
嵩さやか (東北大学法学部教授) — [編]
中野妙子 (名古屋大学法学部教授)

日本社会の高齢化による年金、医療、介護福祉へのニーズの増大とそれに伴う給付費用の増大は、日本の社会保障制度にとって大きな課題の一つとなっている。本書では、年金、医療、介護福祉の各制度について、日本の現行制度とその課題を概説する。同時に、国際的に見て代表的または特徴的な制度を有する国を2国ずつ取り上げてその制度を紹介することで、日本の制度の特徴や制度改革の展望を明らかにすることを旨とする。

■ 福祉国家と社会政策

武川正吾 (明治学院大学社会学部教授) — [編]

福祉国家と社会政策という観点から、現にある姿とは異なる高齢社会を構想することは可能だろうか。本書では、社会学、社会福祉学、死生学、哲学、開発経済学などの観点から、人口が高齢化・長寿化した高齢社会のあり方を考える視点を示す。